

第1学年4組国語科指導案

指導者 鶴城中学校教諭 本田 大房

- 1 題材 課題について調べよう - 調べたことを意見文にまとめる -
(光村図書 国語1 単元 四 「暮らしを見つめる」より)

2 題材について

(1) 題材観

本題材は事前に環境に関する2つの教材を学習し、環境に対する自分なりの課題をどう解決し、意見文にまとめるかを学ぶものである。また、調査して文章化するまでの手だても、情報をカード等に整理し、並べなおし文章を構成する方法や、実際の意見文をもとに記述の注意点なども具体的に示されている。

生徒にとっても自分の意見を明確にするために、意見と調べたことをきちんと書き分けることを身につけることができる活動となるだろう。また一連の作業から課題に沿って調査することも体験でき、今後の生活にも生かすことができる題材であろう。

活動に取り組む中で、自分の集めた情報を活用し、自分の考えを発信する意義や楽しさを味わう体験ができる題材と考えている。

(2) 系統観

本教科書では、3つの〔書くことの学習〕に加えて、書くことに関する活動が各単元末にそれぞれ位置づけられている。また本題材では意見と事実の書き分けというスキルを取り上げることで今後の学習につながっていく。

第1学年	第2学年	第3学年
初めて知ったことを伝えよう 課題について調べよう 研究報告書を作ろう	春を届けよう テーマに沿って考えよう 物語を伝え合おう	日本語を考えよう メディアとのかかわりを見直そう わたしたちの未来を考えよう 視野を広げ、考えを深めよう

(3) 生徒観

本学級は男子20名、女子17名、合計37名の学級である。書くことに関するアンケートでは「嫌い」、「どちらかという嫌い」の合計で55%と半数を超えている。理由は主に、構成方法と書く内容が思いつかないからである。また「好き」「どちらかという好き」と答えた生徒も「手紙を書くのが好き」「メールを書くのが好き」など日常の場面で気軽に書けるものが好きと考えているようだ。そこで本題材の調査から意見を書くことを通して、文章を組み立てて書くことに慣れさせる必要があると考えている。

(4) 指導観

視点1 目的を明示して的確に書かせる。

教材文等の視点を参考に、自分たちの身近な課題と捉えて、活動に取り組めるようにする。

視点2 生徒自身が学びあう場をもうける。

生徒自身で活動できる場を工夫し、主体的な活動ができるようにする。

視点3 文章の工夫を実感し次につながるような評価を工夫する。

書くため技術を明確にし「書けるようになった」と実感でき、次の機会にも利用できるようにする。

3 学習指導の目標

B-1-ア	身近な生活や学習の中から課題を見つけ、材料を集め、自分の考えをまとめること。
B-1-イ	伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること。
B-1-ウ	自分の考えや気持ちを的確に表すために、適切な材料を選ぶこと。

○複数の方法で情報を集め、「材料カード」を作ることができる。

○材料を整理・吟味して付箋を利用しながら、構成表をつくることことができる。

○文末表現で、事実と意見の書き分けができた文章を書くことことができる。

4 指導と評価の計画（6時間取り扱い）

次	時	学 習 活 動	学 習 規 準	評価方法
1	2	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価カードで自分の目標をもつ。 学習の流れと意見文について理解する。 環境についての取り組みを調べる。 	〈関心・意欲・態度〉 ・調べ学習に意欲的に参加し、自分の意見をもととしている。	観察シート
2	1	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果から課題を見つける。 調査結果を項目毎、にカードにまとめる。 	〈書くこと〉 ・意見と事実をわけた文章構成をワークシートに作っている。 ・調査結果を原稿用紙にまとめることができる 〈言語事項〉 ・原稿用紙の正しい使い方て文章を書いている。 ・既習の漢字を使い、文体や文末に気をつけながら書いている。	観察シート
	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> 事実と意見の書き分ける。 		発表シート
	1	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートで文章構成を考える。 ワークシートを読み合い、内容に関する気づきやアドバイスを交換する。 		シート
3	1	<ul style="list-style-type: none"> 作品の清書と班内での発表をする。 感想と自己評価記入をする。 		

5 本時の学習

(1) 目標

- 【書くこと】文末表現を的確に用いて、意見と事実が明確に書き分けてある文章を書くことができる。

(2) 評価

評価項目	評 価 基 準	つまづきへの手だて
関心・意欲・態度	自分の文章や他人の文章を読み、気づきやアドバイスを書こうとしている。	自分の日常生活や調査結果と関連がないか気づかせる。
書くこと	調査から得た事実や自分の意見を書き分けることができる。 例やアドバイスを自分の文章に活かして書くことができる。	ヒントカードを利用し事実と意見を分けさせる。 ワークシートで構成表を作らせ書きやすいよう準備させる。 教科書の例文などをもとに文末表現に着目させながら書かせる。
言語事項	既習の漢字を使い、文末表現に気をつけて書くことができる。	個別に支援する。

(3) 展開

過程	徹能	形態	学 習 活 動	基本発問・指示
導入 5分	徹	A	1 これまでの学習を振り返る。	○ 学習の流れを確認しよう。 → 〈視点1〉
展開 10分	能	I	2 教師の二つの説明を聞きどちらがわかりやすいか考える。 ・内容は何か。 ・どちらがわかりやすいか。 ・気になった言葉は何か。 ・気づいたことはないか。	○ わかる情報をすべて挙げよう。 ○ 次に、伝えたかったことは何だろう。 ○ どちらがわかりやすかったですか。 ○ わかりやすいと思った理由を発表してください。
		G		
30分	能		自分の記録カードを意見と事実に分けることができる。	
		I	3 教科書の例文で意見・事実の書き分けを学ぶ。	○ 意見と事実の書き分け方を知ろう。
		I	4 記録カードをワークシートをつかって意見と事実に分ける。	○ 内容をもとに意見と事実を分けよう。
	G	5 お互いの構成表を見て、気づいたことを付箋に書いて貼り合う。	○ 付箋に気づきなどを書いて、友達にアドバイスしよう。 → 〈視点2〉	
まとめ 5分	徹	A	6 自己評価する。	○ 今日の活動の反省を書こう。 → 〈視点3〉

教師の支援	評価（評価方法）	備考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体を見通した中で、今日の学習の流れと目的を確認する。 ○ 机間指導をしながら観察し、チラシ等の情報がより多く出るように指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 顔を上げるなどして教師の話を十分理解しようとしている。 ○ ワークシートに情報源から得られる情報を書き出している。 ○ ワークシートで事実を分けることができる。 	個人カルテ VTR ワークシート 広用紙
<ul style="list-style-type: none"> ○ 事実と意見がわかりやすい文章は、自分の気持ちや主張が伝わりやすいことを伝える。 ○ 活動を理解させ、作業の早い生徒などをほめ、いくつかを例示し、活動を促進させる。 ○ 作業の遅い生徒にはヒントカードを配り、主体的に活動に参加できるようにする。 ○ あまり書けなかった班には、教師から付箋にアドバイスを書いて渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 例文をきちんと事実と意見に分けようとしている。またわからないところは積極的に質問ができる。 ○ ワークシート上の記録カードに意見か事実の分類ができています。 ○ 自分の意見やアドバイスを友達のワークシートに貼り、お互いの文章をよくしようとしている。 	ワークシート 付箋 ヒントカード
<ul style="list-style-type: none"> ○ 机間指導の中で活動が早く進んだ生徒を探し、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の発表を聞くことができる。 	ワークシート